

15	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17101006	海底ステーションを基地とする海中観測ロボットによる自動海底地殻変動観測手法の開発	浅田 昭 (東京大学・生産技術研究所・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、提案する海底地殻変動計測システムの実現に向けて、これまで主として、必要となるセンサ（音響測距）の小型化と高精度化、および伝送手段（音響LAN）の高速化に成功している。当該センサの開発は代表者の卓越した研究能力があっこそ成功したと推察され、開発された伝送手段とともに、関連分野の波及性は極めて大きいと考えられる。</p> <p>今後は、アクセス手段としてAUV（自律海中ビークル）を採用した場合の実海域における実証実験を目指している。これは、上述の要素技術の有用性を示すために必要不可欠とされ、代表者は実際にAUVを運用する際の技術的・経済的諸問題にどう対応するかの検討を迫られている。代表者のそのような今後の研究方針は支持されるべきであるが、本研究の目的にはアクセス手段自体の開発までは含まれず、あくまで研究した要素技術を実用に耐え得るレベルまで高めるという立場で、最大限の努力を期待したい。</p>				
16	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17101007	人工複合糖質プローブの創製と高次生命機能の制御	木曾 真 (岐阜大学・応用生物科学部・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究課題は、研究代表者の世界をリードする人工複合糖質合成技術を生かしたプローブ作成と糖鎖の高次生命機能制御機構解明を目指す糖鎖生物学グループとの緊密な連携によって遂行されている。その結果、Siglec-7の糖鎖認識機構の解明やガングリオシド関連の研究は学術面において価値の高い成果を挙げている。</p> <p>他方、プロテオグリカンを対象とした研究は、従来の蓄積が少ない事から立ち遅れているが、後半の研究で良い成果が得られれば、免疫学領域に大きな波及効果をもたらす事が期待できる。</p>				